

【ライフイン®】作物別施用方法例

【葉菜類】	…	1
【根菜類】	…	2
【茎菜類】	…	3
【果菜類】	…	4
【イモ類】	…	5
【果実的野菜】	…	6
【果樹類】	…	7
【穀物類】	…	8
【豆類】	…	9

No.	作物名	散布方法	希釀倍率	散布量	散布時期・回数		備考
1	キャベツ	追肥	400倍	300ℓ/10a	1回目	4葉展開期	
					2回目	6葉展開期	
					3回目	結球前	
2	ハクサイ	育苗	400倍	3ℓ/m ²	1回目	定植時に4葉以上展開している場合	
		追肥	400倍	300ℓ/10a	1回目	結球葉が立上る前	
					2回目	上記1回目から2~3週間後	
3	ホウレンソウ	追肥	400倍	500~800ℓ/10a	1回目	4葉展開期	400倍希釀厳守。
					2回目	6葉展開期	
					3回目	収穫3週間前	
4	レタス	育苗	400倍	3ℓ/m ²	1回目	定植時に4葉以上展開している場合	
		追肥	400倍	300ℓ/10a	1回目	4葉展開期	
					2回目	6葉展開期	
					3回目	結球前	

注1)一回あたりの原液正味投入量を2kg/10aにするのが理想的。散布量は作業上困難であれば散布設備に合わせて変更。

注2)上記は標準施用時期及び量であり、生育によってはこの限りでなく、チッ素肥効への偏りがみられる時には、更に追肥する。

注3)降雨の続く時にもライフインの施用は軟弱徒長を防ぎ、健全な生育に有効である。

注4)苦土の要求量が上がるため、りん酸吸収効率の上昇効果を含めて腐植酸苦土肥料の施肥を推奨。

No.	作物名	散布方法	希釀倍率	散布量	散布時期・回数		備考
1	ゴボウ	追肥	200~300倍	300~400ℓ/10a	1回目	6葉展開期	
					2回目	根茎肥大開始期	
					3回目	上記2回目から2~3週間後	
2	ショウガ	追肥	200倍	200ℓ/10a	1回目	第1茎の7葉展開期	『ライフイン』は水溶性カルシウムを7.0%含有。カルシウム欠の心配はなくなり、且つ植生が欲するタイミングで補給可能。
					2回目以降	上記1回目から10日~14日間隔	
3	ダイコン	追肥	200~300倍	200~300ℓ/10a	1回目	6葉展開期	
					2回目	根茎肥大開始期	
					3回目	上記2回目から2~3週間後	
4	ニンジン	追肥	200~300倍	200~300ℓ/10a	1回目	6葉展開期	
					2回目	根茎肥大開始期	
					3回目	上記2回目から2~3週間後	

注1)一回あたりの原液正味投入量を2kg/10aにするのが理想的。散布量は作業上困難であれば散布設備に合わせて変更。

注2)上記は標準施用時期及び量であり、生育によってはこの限りでなく、チッ素肥効への偏りがみられる時には、更に追肥する。

注3)降雨の続く時にもライフインの施用は軟弱徒長を防ぎ、健全な生育に有効である。

注4)苦土の要求量が上がるため、りん酸吸收効率の上昇効果を含めて腐植酸苦土肥料の施肥を推奨。

No.	作物名	散布方法	希釀倍率	散布量	散布時期・回数		備考
1	タマネギ	育苗	200倍	3ℓ/m ²	1回目	定植20日前から10日前	
		追肥	50~100倍	100ℓ/10a	1回目	6葉展開期	肥効を更に強めたい場合、50~100倍希釀も可
					2回目	球肥大開始期	
					2回目 以降	上記2回目から2週間隔	
2	ネギ(葉ネギ)	育苗	200倍	3ℓ/m ²	1回目	軟弱徒長傾向が認められた場合	肥効を更に強めたい場合、50~100倍希釀も可
					2回目	上記1回目から1週間後	
		追肥	100~200倍	200~300ℓ/10a	1回目	収穫1ヶ月前頃	肥効を更に強めたい場合、50~100倍希釀も可
					2回目 以降	上記1回目から1週間毎に計3~4回	

注1)一回あたりの原液正味投入量を2kg/10aにするのが理想的。散布量は作業上困難であれば散布設備に合わせて変更。

注2)上記は標準施用時期及び量であり、生育によってはこの限りでなく、チッ素肥効への偏りがみられる時には、更に追肥する。

注3)降雨の続く時にもライフインの施用は軟弱徒長を防ぎ、健全な生育に有効である。

注4)苦土の要求量が上がるため、りん酸吸収効率の上昇効果を含めて腐植酸苦土肥料の施肥を推奨。

No.	作物名	散布方法	希釀倍率	散布量	散布時期・回数		備考
1	キュウリ	育苗	200倍	3L/m ²	-	2~3回	
		追肥	200倍	200~300L/10a	1回目	開花期	
					2回目以降	上記1回目から1週間隔	
2	トマト	育苗	400倍	3L/m ²	-	2~3回	
		追肥	400倍	200~400L/10a	1回目	第1果が直径2.0~2.5cmになった時	
					2回目以降	上記1回目から10日~14日間隔	
3	ピーマン	育苗	200倍	3L/m ²	-	2~3回	
		追肥	200倍	200~300L/10a	1回目	開花期	
					2回目以降	上記1回目から1週間隔	

注1)一回あたりの原液正味投入量を2kg/10aにするのが理想的。散布量は作業上困難であれば散布設備に合わせて変更。

注2)上記は標準施用時期及び量であり、生育によってはこの限りでなく、チッ素肥効への偏りがみられる時には、更に追肥する。

注3)降雨の続く時にもライフインの施用は軟弱徒長を防ぎ、健全な生育に有効である。

注4)苦土の要求量が上がるため、りん酸吸収効率の上昇効果を含めて腐植酸苦土肥料の施肥を推奨。

No.	作物名	散布方法	希釀倍率	散布量	散布時期・回数		備考
1	サツマイモ	育苗	200倍	3ℓ/m ²	1回目	定植20日前	
					2回目	定植10日前	
		追肥	200倍	400ℓ/10a	1回目	根茎肥大開始期2週間前	
					2回目以降	上記1回目から2~3週間毎、収穫2週間前迄	
					その他	※高温・多雨の「つるボケ」がでそうな時。	
2	ナガイモ	追肥	200~300倍	300~400ℓ/10a	1回目	6葉展開期	
					2回目	根茎肥大開始期	
					3回目	上記2回目から2~3週間後	
3	バレイショ	追肥	200倍	200ℓ/10a	1回目	出芽後、着蕾期までの間	
					2回目	着蕾期	
					3回目以降	上記2回目から2~3週間毎に1回以上	

注1)一回あたりの原液正味投入量を2kg/10aにするのが理想的。散布量は作業上困難であれば散布設備に合わせて変更。

注2)上記は標準施用時期及び量であり、生育によってはこの限りでなく、チッ素肥効への偏りがみられる時には、更に追肥する。

注3)降雨の続く時にもライフインの施用は軟弱徒長を防ぎ、健全な生育に有効である。

注4)苦土の要求量が上がるため、りん酸吸収効率の上昇効果を含めて腐植酸苦土肥料の施肥を推奨。

No.	作物名	散布方法	希釀倍率	散布量	散布時期・回数		備考
1	イチゴ	育苗	300~400倍	3ℓ/m ²	2~3回	適宜使用	
		追肥	300~400倍	200~300ℓ/10a	活着期以降	2週間毎	
					加温開始後	1週間毎	
					1番果終了後	硫マグの1000倍希釀液と混用	
					2番果以降	硫マグの1000倍希釀液と混用	
2	スイカ	育苗	200倍	3ℓ/m ²	2~3回	適宜使用	
		追肥	200~300倍	200~300ℓ/10a	1回目	果実がピンポン玉大になった頃	
					2回目	上記1回目から2週間後	
					3回目	収穫1ヶ月前	
					4回目	収穫2週間前	

注1)一回あたりの原液正味投入量を2kg/10aにするのが理想的。散布量は作業上困難であれば散布設備に合わせて変更。

注2)上記は標準施用時期及び量であり、生育によってはこの限りでなく、チッソ肥効への偏りがみられる時には、更に追肥する。

注3)降雨の続く時にもライフインの施用は軟弱徒長を防ぎ、健全な生育に有効である。

注4)苦土の要求量が上がるため、りん酸吸収効率の上昇効果を含めて腐植酸苦土肥料の施肥を推奨。

No.	作物名	散布方法	希釈倍率	散布量	散布時期・回数		備考
1	柑橘	追肥	200~400倍	200ℓ~300ℓ/10a	1回目	萌芽前	
					2回目	開花前	
					3回目	果実が小指の先大の頃	
					4回目 以降	上記3回目から2~3週間毎	
2	その他	追肥	200~400倍	200~300ℓ/10a	1回目	果実が小指の先大の頃	
					2回目	上記1回目から2~3週間毎	

注1)一回あたりの原液正味投入量を2kg/10aにするのが理想的。散布量は作業上困難であれば散布設備に合わせて変更。

注2)上記は標準施用時期及び量であり、生育によってはこの限りでなく、チッソ肥効への偏りがみられる時には、更に追肥する。

注3)降雨の続く時にもライフインの施用は軟弱徒長を防ぎ、健全な生育に有効である。

注4)苦土の要求量が上がるため、りん酸吸収効率の上昇効果を含めて腐植酸苦土肥料の施肥を推奨。

No.	作物名	散布方法	希釈倍率	散布量	散布時期・回数		備考
1	コムギ	追肥	100~200倍	200ℓ/10a	1回目	6葉展開期	
					2回目	幼穂形成期(出穂45日前)	
					3回目	出穂30日前	
					4回目以降	上記3回目から1ヶ月後	
2	水稻(参考)	育苗	200倍	400~600cc/箱	1回目	綠化期	
					2回目	移植1週間前	
		追肥	200~300倍	300~400ℓ/10a	1回目	幼穂形成期(出穂45日前)	葉面散布が望ましい
					2回目	出穂30日前	
					3回目	上記3回目から1ヶ月後	

注1)一回あたりの原液正味投入量を2kg/10aにするのが理想的。散布量は作業上困難であれば散布設備に合わせて変更。

注2)上記は標準施用時期及び量であり、生育によってはこの限りでなく、チッソ肥効への偏りがみられる時には、更に追肥する。

注3)降雨の続く時にもライフインの施用は軟弱徒長を防ぎ、健全な生育に有効である。

注4)苦土の要求量が上がるため、りん酸吸収効率の上昇効果を含めて腐植酸苦土肥料の施肥を推奨。

No.	作物名	散布方法	希釀倍率	散布量	散布時期・回数		備考
1	小粒ダイズ	追肥	200~400倍	100ℓ/10a	1回目	5葉展開期	
					2回目	開花期	
					3回目	着莢期	
					4回目以降	子実成熟期	
2	エンドウ	追肥	200~400倍	400ℓ/10a	1回目	開花後	節間が伸びるようであれば適宜追肥。
					2回目以降	上記1回目から2週間隔。収穫終了時まで施用	
2	ソラマメ	追肥	200~400倍	400ℓ/10a	1回目	開花後	節間が伸びるようであれば適宜追肥。
					2回目以降	上記1回目から2週間隔。収穫終了時まで施用	

注1)一回あたりの原液正味投入量を2kg/10aにするのが理想的。散布量は作業上困難であれば散布設備に合わせて変更。

注2)上記は標準施用時期及び量であり、生育によってはこの限りでなく、チップ肥への偏りがみられる時には、更に追肥する。

注3)降雨の続く時にもライフインの施用は軟弱徒長を防ぎ、健全な生育に有効である。

注4)苦土の要求量が上がるため、りん酸吸收効率の上昇効果を含めて腐植酸苦土肥料の施肥を推奨。